

〔東京特産野菜品種の育成〕
サトイモ「土垂」優良品種の育成
～最終選抜～
荒木俊光・海保富士男・野口 貴
(園芸技術科)

【要 約】サトイモ土垂系の優良3系統を、農総研および生産者の圃場で3年間に亘り試験栽培し、2008年には最終選抜を行った。本年度を含む今までの成績から品質、収量性、作業性などで「D-1」を有望系統とした。

【目 的】

都内のサトイモは、約300haの作付け面積があり、主要な品目の一つである。また、輪作作物としても重要な役割を果たしている。そこで、都内各地域から有望な系統を収集し、品質、収量性に優れた系統を選抜し、普及することで生産の安定をはかる。

【方 法】

各系統で、丸、俵形の孫イモ、ひ孫イモの着生が50%以上の株を選んで、その70～120g程度のイモを種イモとし、2008年4月22日植え付け11月18日収穫した。畦間1.1m、株間50cmで、生分解性の黒マルチを使用した。元肥は成分量でN-P₂O₅-K₂Oを10-16-14kg/10a施用した。追肥は7月17日に、成分量でN-P₂O₅-K₂Oを5-5-5kg/10aを施用し、同時に土寄せを行った。病虫害防除は、アブラムシの防除を1回行った。調査は、平均的な株を、13株掘り取りを行った。

【成果の概要】

- 1) これまでの試験成績から、これら3系統は、農総研が保有してきた土垂系統よりも収量性、品質で優れており、また、各年の気象状況の変化の中でも、収量が安定して多く、現地試験の生産者も各自の保有系統より収量、品質で優れていると高く評価している。
- 2) 2008年の結果は、1株当りの子イモ、孫イモ、ひ孫イモの総計は、「D-1」が多かった(表1)。
- 3) 収量と相関の高い孫イモ重は、「D-1、D-3」が、「D-2」よりやや多かった(図1)。
- 4) 各系統の形状は、「D-1」で丸形が多く、「D-2、D-3」で俵形が多かった。「D-1」の1区で孫イモにコガネムシ幼虫の被害が発生した。その被害イモを除外しても、丸、俵、紡錘形まで含めた収量は、「D-1、D-3」が多かった。丸、俵形では「D-3」が多く、次いで「D-1」であり、「D-2」がやや少なかった(図2、表2)。
- 5) 収穫作業は、トラクタに取り付けた牽引式根菜堀上機で行ったが、他の2系統に比べて「D-3」は、子イモの分離する株が多く、収穫作業に手間取った。
- 6) 以上の結果から、3系統の中で、収量、品質、作業性などから「D-1」が最も優れていると判断した。

表1 1株当たりの子イモ、孫イモ、ひ孫イモの総重量、総個数

		重量(g)	個数(個)	平均重(g)
D-1	合計	2,655	37	—
	子イモ	991	6	167
	孫イモ	1,347	21	63
	ひ孫イモ	317	10	33
D-2	合計	2,264	31	—
	子イモ	932	6	164
	孫イモ	1,108	17	64
	ひ孫イモ	223	8	28
D-3	合計	2,270	34	—
	子イモ	772	6	139
	孫イモ	1,234	19	64
	ひ孫イモ	264	9	29

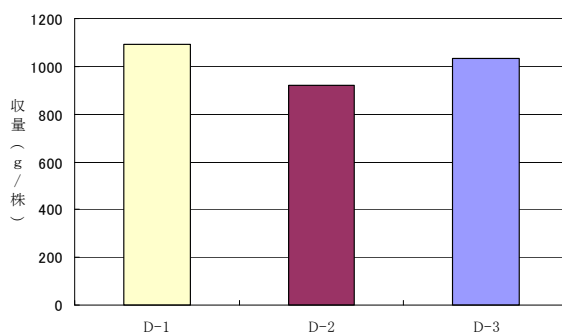


図1 50g以上の孫イモ収量の比較

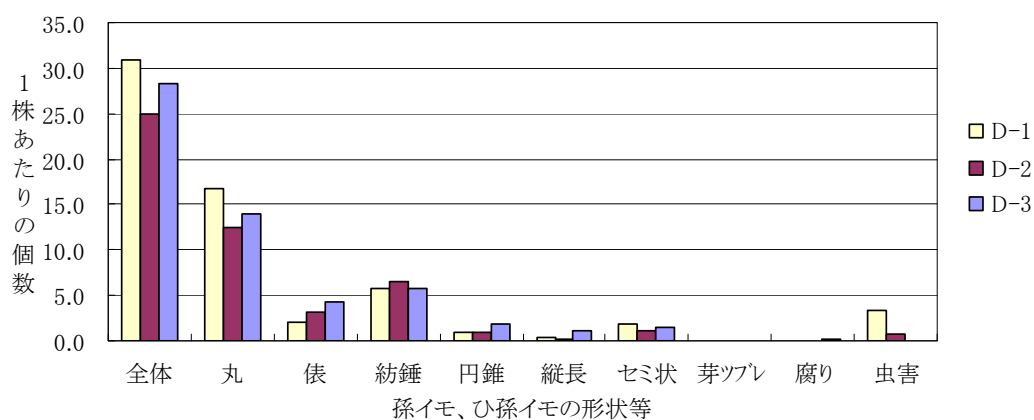


図2 各系統の1株あたりの形状別個数

表2 サトイモ土垂3系統の50g以上の孫いも、ひ孫いもの形状別個数、重量(2008年農総研ほ場 1株あたり)

選抜系統		合計	丸	俵	紡錘	円錐	縦長	セミ状	芽ツブレ	腐り	虫害	丸俵紡錘計	丸俵計
D-1	重量(g)	1,249	537	172	385	29	0	5	5	0	116	1,094	709
	個数(個)	15.2	6.3	1.9	4.6	0.5	0	0.1	0.1	0	1.7	13	8.2
D-2	重量(g)	995	385	251	296	18	0	10	5	0	30	932	636
	個数(個)	11.7	4.6	2.5	3.7	0.2	0	0.2	0.1	0	0.4	11	7.2
D-3	重量(g)	1,135	366	376	317	61	0	16	0	0	0	1,059	741
	個数(個)	13.7	4.8	3.6	4.2	0.8	0	0.2	0	0	0.0	13	8.5

選抜系統		丸俵 (%)	丸 (%)	俵 (%)	平均重 (g)	丸俵平均重 (g)
D-1	重量	56.7	43.0	13.7	82	86
	個数	54.3	41.6	12.7		
D-2	重量	64.0	38.7	25.2	85	89
	個数	61.2	39.5	21.7		
D-3	重量	65.3	32.2	33.1	83	88
	個数	61.8	35.4	26.4		